

区分	評価指標	平成24年度	平成25年度	平成26年度	対前年度比	図書館運営全体				
図書館運営	基本的サービス					自己評価		外部評価		
	資料購入費:決算数値(千円)	54,842	51,745	51,275	0.9%減	<ul style="list-style-type: none"> 蔵書冊数は微増、貸出冊数(点)は、緩やかに減少している。 登録者数は、中央図書館が94人減少し、ほぼ前年と同じ、また東区プラザ図書室が1,382人増加した。山の下・石山図書館の登録者数が減少していることから、東区プラザ図書室の登録者増加に影響していると考えられる。 	1 大変評価する。11%	<ul style="list-style-type: none"> 中央図書館の登録者数と貸出冊数が減少しているのが残念。 登録者の増加のため、一層のPRをしてほしい。 貸出冊数、新規登録者数の減少はグラフを見てもそれほど大きな問題ではない。 東区プラザ図書室の登録者数増加は影響が大きい。 地元の図書館が充実してくると、中央図書館の利用が減るのは致し方ない。 高齢者施設への「いきいきBOX」はとてもよい企画だと思った。 		
	蔵書冊数(冊)	431,605	451,390	459,899	1.9%増					
	貸出冊数(点)	1,555,212	1,474,465	1,450,575	1.6%減					
	登録者数(人)	52,856	52,641	53,929	2.4%増					
(内新規登録者数)	7,223	6,769	6,735	0.5%減						
区分	評価指標	平成24年度	平成25年度	H26目標値	理由	平成26年度	評点	評価(次年度への展開)		
施策・事業	課題解決型図書館					自己評価		外部評価		
	レファレンス件数(件)	4,250	6,165	6,200	対前年度増	4,882	1	<ul style="list-style-type: none"> レファレンス件数は、前年度より21%減少した。児童関係のレファレンスが目立って減っており、児童の図書館利用が減少している影響が出ているものと思われる。 個人予約件数は、前年度を上回り目標を達成した。 ビジネス支援サービス相談受付件数は前年度より8%増加した。ビジネスでの図書館活用の呼びかけが効果を上げていると考える。 平成25年度末に、ホームページのデザインを改修したため、26年度はアクセス件数が増加した。 	1 大変評価する。11%	<ul style="list-style-type: none"> 児童関係のレファレンスが目立って減ったのが児童の図書館利用の減少に影響していることが案じられる。 児童への働きかけを一層努力してほしい。 ビジネス支援も長く続けてきた効果が出てきていると思う。 情報を手に入れる手段が増え図書館だけではないことを冷静に受け止める必要がある。 ホームページが使いやすくなり良かった。7月に更に利便性が増すとこのことで楽しみである。
	個人予約件数(件)	166,115	170,815	171,000	施設目標	171,744	4			
	ビジネス支援サービス相談受付件数(件)	340	347	350	対前年度増	377	4			
	ホームページアクセス件数(件)	1,311,816	1,296,557	1,297,000	前年度並	1,339,303	4			
	分権型図書館					自己評価		外部評価		
	郷土・行政資料の蔵書冊数(冊)	36,288	38,155	38,200	前年度並	38,432	4	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に郷土資料の収集に努め、蔵書冊数が増加した。 特別コレクション室での展示や、地域研究グループ・公民館と連携した講演会の開催など関連資料を幅広く紹介し、貸出冊数は前年度の数値を維持できた。 	1 大変評価する。67%	<ul style="list-style-type: none"> 郷土資料の蔵書冊数が増加したことは良い傾向である。 地域の歴史・文化に光を当てては大変素晴らしいことである。 地域とつながる図書館で、自分の住む場所を学ぶことになり、大いに活用したくなる。 保存と活用の両面を担う難しい立場で、意思を持った活動が必要である。
	郷土・行政資料の貸出冊数(冊)	10,378	10,819	10,900	前年度並	10,910	4			
	学・社・民融合型図書館					自己評価		外部評価		
	児童書の貸出冊数(冊)	315,068	291,507	297,000	対前年度増	288,027	2	<ul style="list-style-type: none"> 児童書及び小中学生への貸出冊数の減少は、児童の図書館利用が減少している影響が出ているものと思われる。 子ども・親子対象事業の「なじらね!この本」や「としょかんクイズ」などを開催し、参加者数は前年度を上回った。 職場体験受入人数は、同日の重複申し込みで受け入れができなかった学校もあったが、前年度を上回った。 	1 大変評価する。33%	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館もあり、貸出冊数は論じられないが他の項目からは評価できる。 なぜ、利用が減少しているか考えるべきではないか。 事業や職場体験が参加者の読書欲につながっているか。 児童書と小中学生への貸出冊数の減少と、児童の図書館利用の関係が分かりづらい。
	小中学生への貸出冊数(冊)	145,290	131,127	133,700	施設目標	124,918	2			
	子ども・親子対象事業の参加者数(人)	5,559	5,886	5,900	前年度並	7,230	4			
	職場体験受入人数(人)	64	47	47	前年度並	64	4			
	講師等としての派遣職員数(人)	24	42	43	対前年度増	35	2			
	パートナーシップ型図書館					自己評価		外部評価		
	図書館事業のボランティア活動者数(延人数)	485	578	580	対前年度増	653	4	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアと協力し実施する事業が増えたことにより、ボランティア活動者数が増加した。 読み聞かせボランティア交流会の参加人数は、昨年度に比べ減少した。 中央図書館で利用者懇談会「しゃべり場inほんぽーと」を開催した。参加者は実行委員を含めて12人だったが、出された意見や課題を今後の事業に活かせるよう検討していきたい。 共催事業の実施回数は、目標に達しなかったが、読み聞かせボランティアや図書館友の会などとの共催事業は継続している。他にもメディアシップ内情報館の展示に協力するなどいろいろな協働を進めている。 	1 大変評価する。22%	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティアと協働して実施する事業が増え、活動者が増加したことは喜ばしい。 ボランティアや友の会の増加を目指して、PRに努めてほしい。 参加人数の増減で一気一優せず、参加した人やボランティア、館の記録もしっかり残してほしい。 読み聞かせボランティア団体交流会は例年、各グループの報告会のようである。図書館登録団体の枠を外すのはどうか。
ボランティア団体交流会参加者数(人)	35	59	59	前年度並	45	1				
利用者懇談会の開催回数(回)	—	—	1	H26までに実施	1	3				
共催事業の実施回数(回)	60	40	45	施設目標	40	2				
運営(職員)					自己評価		外部評価			
研修参加職員数(延人数)	132	183	185	施設目標	195	4	<ul style="list-style-type: none"> 公民館と合同の非常勤嘱託新任研修をはじめ、県内で開催された専門研修、クレーム対応等の実践研修や、様々な館内研修の実施により、前年度を上回った。 	1 大変評価する。78%	<ul style="list-style-type: none"> 実践研修参加者の数が増えたのは良い傾向である。 職員研修が常に行われることが大切である。 	

※施策・事業の評点は1:目標値を大きく下回った 2:目標値を少し下回った 3:目標どおり達成 4:目標値を上回って達成
 ※教育ビジョン:市教育委員会が策定した指針、新・総合計画:市の目指す都市像に向けた行政計画、組織目標:市が実施している組織ごとの行政評価